

## 大月氏及び貴霜に就いて

本稿は大體昭和五年五月十日史學會大會の公開講演で試みた題記の講演の速記に據り、それに或る程度の添削を加へ、且つ文體に變更を施したものに外ならぬ。これを一箇の研究論文として發表する爲には、幾多の論證を添加しなければならぬことは余のよく承知してゐることである。それで寄稿を促された際には、せめてこれらの論證の大部分でも註釋の形として付け加へる積りであつたが、諸種の事情の爲にその意を果し得なかつたことは遺憾である。併しながら余が述べんとした趣旨については、こゝに述べた所だけでも大體讀者の諒解を得ることが出来るであらうと信ずる。一つ一つの細かい問題については更だめて詳論する機會に譲りたい。

東洋の歴史に於て、月氏及び貴霜に關する問題は、種々の方面から繰り返し繰り返して攷究され、甚だ重要で且つ深い興味を有するものゝ一つである。今この講演に於て私の目的とするところは、第一には月氏と貴霜との關係、第二に月氏及び貴霜といふ名稱、これらの二つの問題について、今日の學界に相當勢力を有してゐると考へられる學說が果して是認せらるべきものであるか否かを検討して見ようとするのである。

御承知の通り、これらの問題に關する根本史料は極めて僅少の記事に過ぎないのであつて、史記の匈奴傳・大宛傳、前漢書の張騫傳・西域傳、後漢書の西域傳等の中の數節を主要の據とする外はない次第である。それではこゝ